

この子らと

令和5年12月号

命輝く子ども

中央駅



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

師走(しわす)です!!

お坊さんがお経をあげるために東西を馳せる(走る)ことから、「僧が馳せる月・・・いそがしい月」(しわす)となったと言われています。(俗説)



12月は、その外にも「極月(ごくつき)」、「限りの月」、「徐月(徐月)・・・払い除く月」、「年積月」、「春待月」、「年満月」などとも呼ばれているようです。

下駄買って たんすの上や年の暮れ(永井荷風)
餅の出る槌(つち)がほしさよ年の暮れ(小林一茶)

年末恒例のお餅つきの風習



日本では、昔からお祝いにもちを食べる風習があります。お米は生命力を強めると言われていますが、お米をついて固めたものは、より一層生命力を強めると言われています。

正月に神様に感謝しながら一緒にもちをいただくことで新しい生命や力をいただくこととなります。

12月21日は、本園で「きねとうす」による餅つき大会を実施します。

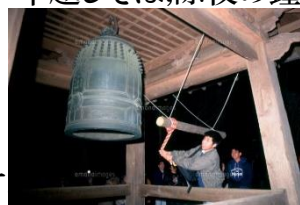
ふるさとは もちつく音に にぎわえり

たのもしき 大所帯なり もちをつく

“心に感動を蓄える”

「小さな感動を、ビーズ玉をつなぎ合わせるように人生を創る時、人は、めったに自分の人生を投げ出したりしません。どんないやなことがあっても、自分の心にある体験を思い出せば、多少なりとも生きる元気が湧いてきます。」

年末の大掃除・もちつき・年越しそば、除夜の鐘等日本伝統の風物詩は家族が寄り添いながら感動のビーズ玉をつなげていく絶好機会となってくれそうです



新年1月14日「発表会」

本年度も、「川商ホール(市民文化ホール)」で開催!



乳幼児期の教育・保育の根幹にあるのは、子どもたちの可能性への職員の絶対的な信頼です。

子どもたちの可能性を引き出すことが乳幼児教育・保育に携わる職員の使命だとするならば、どんな子どもでも「やればできるんだ」という強い信念で、運動会と同じように今回の発表会も子どもたちと本園職員は、創り上げていくことができると信じています。

子どもたちには、失敗を恐れずに何度失敗しても立ち上がる「挑戦力」の基礎を子どもなりにつけてほしいと思っています。「失敗体験」あってこそその「成功体験」です。【子どもたちはつまづきの天才です。「つまづき体験」は、子どもたちに生きる力の根っこを太く強くしてくれます。

“失敗を恐れず果敢に挑戦”

「泣こかい、跳ほかい、泣こよか、ひっ跳べ」(困難に出会った時、あれこれ考えるより、とにかく行動しよう)

(鹿児島郷中教育)

つぶやき

泣いているお友達に●●ちゃんが「泣いていてもしかたないでしょう。何があったか、ちゃんと話してごらん。」と言っていました。

おかあさんのまねかな、先生のまねかな。

いよいよ、後一月で令和6年、2024年を迎えます。「なんとなく今年はいいことあるがごとし。元日の朝、晴れて風なし」(石川啄木)早々ではございますが、良いお年を迎えられますよう念じ申し上げます。